

# かけはじ

2023  
NO. 116

## Contents

特集 口腔ケアと薬	2~3
研修会報告	4
ブロック通信／部会・委員会通信	5
会員紹介	6~7
事務局からのお知らせ	8





令和6年4月からの特養での口腔衛生管理義務化を前に、模範的な口腔ケアの試みとして、社会福祉法人伊丹市社会福祉事業団中野ぬくもりの郷、養護老人ホーム松風園、特別養護老人ホームケアハイツなかのを取材した。摂食嚥下リハ学会認定士でもある辻歯科院長の訪問診療、歯科衛生士のケアに加え、管理栄養士杉江氏と森施設長の「可能な限り、食事形態を落とさないことが高いQOLを維持する」という強い信念のもと、栄養士自ら口腔ケアに参加し、多職種協働で努力と精進を重ねておられる姿に、その名に違わぬ、ぬくもりと、愛を感じた。人は食べ物を噛むことで、脳が活性化され意識レベルが上がり、幸せホルモンが分泌されるのだ。



東播磨ブロックでは、大阪大学歯学部顎口腔機能治療部准教授、野原医師の研修を毎年開催している。先生は著書の中で「薬剤を見ずして嚥下を語るな」と書かれており、私も「ポリファーマシー（多剤服用による有害事象）からの脱却が高いQOLをもたらす」と確信する。先生の研修や著書の内容に加え、薬剤師としての経験談、お役立ち情報をお伝えできればと思う。

まずは高齢者の敵、誤嚥性肺炎を正しく知ろう。誤嚥イコール誤嚥性肺炎ではないこと。口内炎や口腔カンジダの疑いがある場合は歯科医に相談する。そして、侵襲の軽減で最も重要なのは口腔を清潔に保つこと、口腔ケアである。不潔な唾液中には1ml中に10億個の細菌（糞便レベル）が存在するといわれ口腔ケアにより低下する。さらに咽頭のサブスタンスP濃度を上昇させ咳嗽反射や嚥下反射を改善する。（図2）口腔ケアの実践については動画の活用や、地域の歯科衛生士会に実技指導の研修を依頼するのもよい。新様式対応マニュアル、嚥下手帳等はダウンロード可能。「立てよケアマネ」サイトを参考に作成された、ケアプラン虎の巻も好評である。（図3）

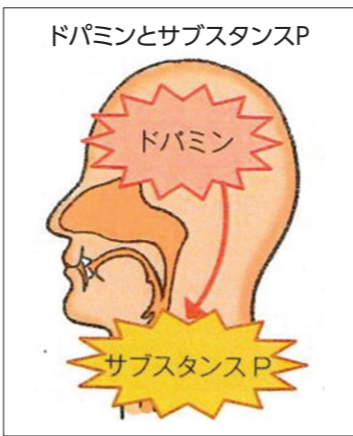


図2 ドパミンは脳基底核で産生され、そのドパミンに誘導されたサブスタンスPが舌咽・迷走神経を介して咽頭に放出される。パーキンソン病やレビー小体型認知症ではドパミン産生が低下するため不顕性誤嚥が多い。

② 抵抗をあげるアプローチ

施設で、通所で、すぐに使える資料
施設における口腔健康管理推進マニュアル
口腔機能向上加算導入の手引き
通いの場で生かすオーラルフレイル対応マニュアル
嚥下手帳
お勧め書籍
シンプルなロジックですぐできる
薬からの摂食嚥下臨床実践メソッド
『認知症患者さんの病態別食支援
安全に最期まで食べるための道標』
QRコード
ケアプラン虎の巻

図3 ホームページからダウンロードできる資料とお勧め書籍

免疫機能には栄養状態が大きく関与している。ある一定の食べ物しか食べなくなり、栄養バランスがとれなくなった場合は栄養補助食品を利用するのも良い方法である。褥瘡などがなければ一般的な栄養バランスのもので十分。褥瘡があれば、傷の修復に良いコラーゲンペプチド、亜鉛が強化された栄養剤がお勧め。当施設ではブイクレスのCPIOを利用している。肺炎球菌ワクチン接種も有効。咳嗽反射の改善に嚥下機能の改善が期待されるACE阻害剤（カプトプリル等の降圧薬）や抗血小板薬のシロスタゾール、抑うつや咽頭の違和感に使う半夏厚朴湯を選択する方法も

い。侵襲が抵抗に勝った時だけ誤嚥性肺炎を発症する。（図1）侵襲とは、誤嚥した物の量、性質であり、抵抗とは、呼吸、咯出（咳払い）、免疫機能が相当する。つまり、誤嚥されたものが、細菌汚染されておらず呼吸器に害がなければ肺炎は生じない。また、誤嚥しても力強い咳払いが可能で免疫機能が良ければ、誤嚥したものを排出、処理できるため発病しない。すなわち予防には、侵襲を減らす、または抵抗をあげるアプローチが有効である。

① 侵襲を減らすアプローチ

嚥下時に、自然と頸部前屈位（少しうなずくような状態）になるようにする。嗜好を大切に、好きな食べ物で脳を刺激する。香辛料や柚子、酢などで味覚・嗅覚を刺激し食品認知を促す。

機能に合わせた食事の提供も大切。誤嚥や窒息なく、安全に嚥下ができるかどうかは食塊形成の良否に負うところが大きい。食塊形成とは、食べ物飲み込みやすい状態に口でまとめ上げること。認知症が進行すると咀嚼ができなくなる。その代わりに、押しつぶしや哺乳動作用が出現してこくもも多く、ちようど小児の経口摂取機能の発達を逆行するように嚥下機能が低下していく。すなわち、下顎が咀嚼ではなく、単純な上下運動になってくれば押しつぶしで食べられる食事を、舌が前後にしか動かないようであればペースト食を提供する。

高齢の認知症患者さんが最も誤嚥しやすい物は水分であり、とろみ剤が有効。これも利用者の機能に適した濃度に調整する。とろみのつきにくいもの（牛乳流動食・味噌汁・果実ジュース）などは二度混ぜをし、とろみ剤を使い過ぎないようにする。二度混ぜとは、一度とろみ剤を入れて30回以上かき混ぜてから5〜10分放置し、再度

あるがシャープな効果はない。円背・猫背の方は胸郭が小さくなり1回換気量が少なくなつて勢いよく咳ができなくなる。呼吸・咯出機能を改善する呼吸理学療法には、シルベスター法、体軸の捻転、肩甲骨の内転（胸を張る）がある。ムせている患者さんに対して排出を促すため軽く背中を叩くタッピングは現在その効果は否定されている。しっかりと力強くムせている場合は、見守りで十分。ムセが弱い、大量に誤嚥した場合はドレナージ（気管や肺の中に入った誤嚥物を重力を利用して中枢気道へ誘導・排出する方法）が有効。左右に傾くことなく座位で食事をしていった場合、右の気管支が左より太く、角度が小さいため誤嚥物は一般には肺の右下に流れ込む。したがって、ドレナージは右肺を上にした体位で横になり、誤嚥物が喉まで上がってくると喉がゴロゴロいい始めるのでそのタイミングで咳をするよう促すとよい。

何より、薬剤の減量・中止で驚くほど嚥下機能が改善することがある。（図4）

利用者の近くで、日々の生活に寄り添った支援をする介護職員は、利用者の体調変化にいち早く気付くことができる。だからこそ、薬のリスクを知って観察を怠らず、その変化を医療職に伝えれば、過小でも過剰でもない、適切な医療へ導くことができる。薬は最小限にとどめ、その人らしい生活を支える介護に重点を置くことで、利用者のQOLは著しく向上し、医療費の削減にも繋がる。今回の記事が皆様にとって、その重要な役割を果たしていく一助となれば幸いです。

（編集委員 浅井愛子）

Table with 2 columns: 薬名 (Medicine Name) and 作用/副作用 (Action/Adverse Effects). Includes drugs like 抗精神病薬, 制吐薬, 筋弛緩薬, etc.

図4 嚥下機能を低下させる薬剤

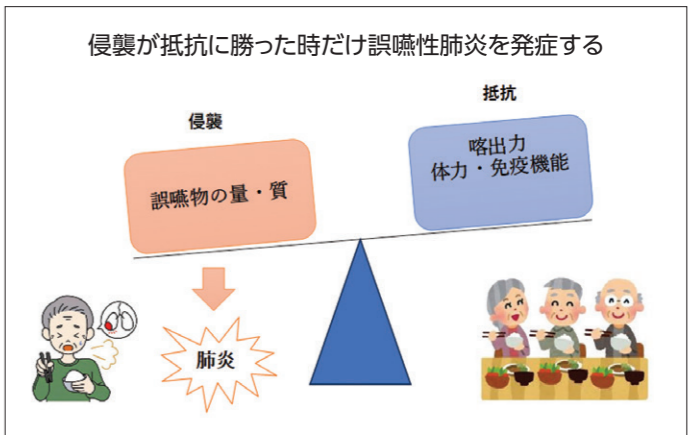


図1 侵襲と抵抗のバランス

## 阪神ブロック

- 9月28日 養護老人ホーム意見交換会 「各事業所の現状と課題について」
- 10月25日 第2回 施設長会・意見交換会 テーマ「人材・ICT・新型コロナウイルス・物価高騰」 テーマごとにグループワークを開催
- 11月15日 阪神ブロックデイ部会(オンライン開催) 「理由を探る認知症ケア」 講師:ミカタプラス代表 妻 鍋洙(ペ ホス)氏

## 東播磨ブロック

- 7月14日 第1回職員研修会 「認知症の原因疾患を考えた食支援 ～病態・薬剤からのアプローチ～」 小野市うるおい交流館エクラにて 講師:大阪大学顎口腔機能治療部 准教授 歯科医師 野原幹司氏
- 9月6日 第2回職員研修会 「暮らしから考える排泄ケア 基礎編」 小野市うるおい交流館エクラにて 96名出席 講師:(株)はいせつ総合研究所 排泄用具の情報館むつき庵 副所長 熊井利将氏
- 10月12日 第3回職員研修会 「元気が出る介護セミナー ～認知症の人に届く、声のかけ方・接し方～」 小野市うるおい交流館エクラにて 講師:元気が出る介護研究所代表 介護アドバイザー 高口光子氏
- 11月14日 第4回職員研修会 「ノーマルケアが必要な理由 ～実践方法と福祉用具の選び方～」 小野市うるおい交流館エクラにて開催予定 講師:一般社団法人ナチュラルハートフルケアネットワーク 理学療法士 下元佳子氏
- 令和6年1月22日 予定 第5回職員研修会 「暮らしから考える排泄ケア 応用編」 小野市うるおい交流館エクラにて開催予定 講師:(株)はいせつ総合研究所 排泄用具の情報館むつき庵 副所長 熊井利将氏

## 西播磨ブロック

- 9月8日 職員研修会 「認知症介護研修(基礎研修)」 講師:松原宏樹氏
- 10月30日 職員研修会 「BCP研修」 講師:一般財団法人鳥野財団 代表理事 鳥野猛氏
- 11月20日 職員研修会 「虐待防止研修」 講師:一般財団法人鳥野財団 代表理事 鳥野猛氏

## 姫路ブロック

- 5月16日 感染症対策研修会 「新型コロナウイルス感染症の分類が2類から5類への移行に伴う対応」 講師:姫路市介護保険課 三木孝氏
- 7月18日 高齢者施設等における災害対策研修会 第1部「会員施設のBCP策定進捗状況の確認及びポイント」 講師:姫路市介護保険課 三木孝氏 第2部「福祉避難所の役割と姫路市との協力連携について」 講師:姫路市地域福祉課 津志憲輔氏
- 9月12日 施設介護計画や相談援助に関する研修会 講師:社会福祉法人やながせ福祉会統括事務局長 藤原重樹氏
- 11月21日 リスクマネジメント研修会 講師:大倉山法律事務所弁護士 多田徹氏

## 但馬ブロック

- 12月7日 看護職員研修会(オンライン開催) 「口腔ケアと誤嚥性肺炎」 講師:田中歯科医院 院長 田中 匠氏 歯科衛生士 高本妙子氏

## 丹波ブロック

- 11月27日 全体研修会(オンライン開催) 「コロナウイルスとの付き合い方」 講師:兵庫医科大学ささやま医療センター 感染管理認定看護師 土井田明弘氏

## 淡路ブロック

- 8月25日 行政連絡会
- 9月22日 看護師・介護職員研修会 「認知症ケアと住環境・業務環境改善」 講師:福祉環境アドバイザー 矢作聡氏 兵庫県立福祉のまちづくり研究所主任 福元正伸氏
- 10月20日 ケアプラン研修会
- 11月10日 リスクマネジメント研修会 「介護事故における施設の責任はどのように判断されるのか・裁判から考えるリスクマネジメント」 講師:しきしま法律事務所 弁護士 藤井伊久雄氏
- 12月11日 給食関係職員研修会 「人材不足から考える永続的な給食運営の為に」～今できること～直営、委託、クックチルの今後 講師:株式会社ナリコムエンタープライズ 営業統括本部近畿営業部 課長 西本啓紀氏 感染管理認定看護師 土井田明弘氏

## 部会・委員会通信

### ◎ 介護保険推進事業

介護報酬改定の影響調査を実施・分析したものをホームページに掲載しております。又本調査に基づき厚生労働省と意見交換を行いました。

### ◎ サービス評価委員会

令和5年度サービス評価事業を実施しています。(本年度評価8施設)

### ◎ 介護人材確保推進委員会

今年度は、各会員事業所求人にも役立つようホームページのリニューアルを進めています。現在ある当会の動画、リーフレットを今以上に活用できるホームページにリニューアルし、介護の魅力を広くPRしたいと考えています。将来の介護人材の確保を目指し、介護の仕事の魅力を伝える「出前授業」は、新型コロナウイルスの感染症が発生して以来活動が縮小しておりますが、継続して、中学校、高等学校からの依頼に応じて実施しています。また、県内中学校1年生へ「楽々介護」、県内高校1年生へは「わたしを叶える。」のパンフレットをそれぞれ配布しました。そして、就職前プレゼンテーションも介護福祉士養成施設2校で実施しました。

### ◎ 調査研究委員会

当業界の継続的な課題である「人材の確保・定着及び人材育成、労働環境・処遇改善等」をテーマに掲げ、R5年度は会員事業所の現状及び課題を調査し対策を検討します。

### ◎ 編集委員会

会員施設の新たな取り組み等の情報をお寄せください。「かけはし」に取り上げさせていただきます。特集記事のテーマも募集します。かけはし17号発行は3月を予定しています。

### ◎ ケアプラン委員会

第1回目は10月18日に実施し、第2回目は11月29日、第3回目は年明け1月22日に実施予定です。

### ◎ 研修委員会

【今年度開催した研修】認知症介護基礎研修(7月4日、11月28日)、安全対策加算対象の安全対策担当者研修(8月30日)、生産性の向上セミナー(10月4日)、人生の最終段階における対応向上研修「いのちの終わりの向き合い方」(10月24日)、「介護の日イベント」人生の最終段階に向けての県民フォーラム「"終末期"の生を支える」(11月13日)、職員研修「認知症のホントのところ」(11月21日)【介護支援専門員実務研修受講試験対策助成事業】Web配信教材や統一模擬試験(在宅受験)の費用負担(半額助成)【今後の研修開催予定】認知症介護基礎研修(12月21日)、施設長研修会(3月)

### ◎ 養護部会

1月18日に「精神疾患を持つ方へのケアと支援者のメンタルヘルス」をテーマに職員研修会、年度内に施設長研修会を開催する予定です。ご参加をお待ちしております。

### ◎ 軽費・ケアハウス部会

11月7日軽費・ケアハウス部会施設長研修会「SNSを活用した人材確保」をテーマに開催しました。2月5日職員研修「ケアハウスの困難事例(認知症)ってなあに?～心構えについて(入門編)」を開催します。是非、ご参加ください。

### ◎ デイ部会

11月30日に「デイサービスの取り組み事例と課題の共有」をテーマに研修会を開催いたしました。年度内に管理者研修を開催する予定です。

### ◎ 地域サポート施設推進事業

「令和5年12月8日(金)に、認定施設による事例発表会と令和6年度認定施設募集要項説明会をしました。

## 介護職員等の人生の最終段階における対応向上研修

令和5年10月24日(火)開催 場所 WEB研修

看取りコミュニケーション講師、正看護師の後閑愛実氏より「いのちの終わりの向き合い方」と題して、Web研修にて講演いただきました。まず「良い死」を構成する6つの要素として研究結果の紹介がありました。①痛みやその他症状での苦しみが無い事②明確な治療方針が決まっている事③死の直前や死後への準備が出来ている事④大切な人と過ごし、人生の振り返りを完了する事⑤最後まで他者に貢献出来る事⑥「患者」ではなく全人的な肯定感を持てる事が挙げられました。

死生観は人それぞれであり、他者が決める事ではありません。本人の意思・家族の意志を尊重し、その人らしい最期を迎えられる様に、事前の準備を行い、話をする事が大切だと学びました。

また理想的な看取りとして「老衰」に近づける事。一つの指標として延命治療で苦しむばかりではなく、バランスよく衰えていき穏やかに最後まで過ごせたとあれば悲しさや寂しさはあっても「理不尽な死」とは感じにくくなり、家族や職員にとっても救いになると話されました。

近い将来、死を避けられないとされた人に対し、身体的苦痛や精神的苦痛を緩和・軽減すると共に、人生の最期まで尊厳のある生活を支援する事が大事なのだと思います。



福祉施設でも利用者の死に密接に関わっており、不安な気持ちを持つ職員も少なくありません。バーニアウトを防ぐメンタルケアとして、自分自身や周りのグリーフの症状に気づけるようにし、一人で抱え込まず、周りのサポートを得ながら自身の生活を大切にする事がネガティブな感情を和らげていくセルフケアが必要であると知りました。

医療の発達と共に高齢化が進んだ現代において、どのように安らかな最期を迎えるか関心が高まってきているように思います。本人にとって幸せと感じる最期を迎える為には、本人、家族、医療ケアチームでのいのちの終わりに向き合い、しっかりと話し合っって判断していく事が重要であると学ぶことができ、非常に有意義な研修でした。

編集委員 鹿瀬直樹

## 「令和5年度軽費・ケアハウス部会企画施設長研修会」 SNSを活用した人材確保

令和5年11月7日(火)開催 場所 WEB研修

現在、兵庫県老人福祉事業協会の会員施設が直面する共通課題として、物価高騰や介護人材の不足問題など、施設運営や経営環境は深刻な状況下であり、県内の経済界からも同様の問題について兵庫県に対し要望書提出の報道もありました。

令和6年度には介護報酬改定が予定されている中、先般、厚生労働省の令和5年度介護事業経営実態調査で介護施設での初の赤字報道も有り、今のところ明確な改定内容は明示されていない為、今後の事業経営にどのような影響がもたらされるか不透明な状況です。

この度、11月7日に前述課題の一つである介護人材の不足を補う為に、「SNSを活用した人材確保」と題し、株式会社No.Kコムエス事業部執行役員の北山翔氏を講師にお迎えし、軽費・ケアハウス部会施設長研修会を開催致しました。

北山氏は現職に就かれる以前の労働局やハローワークでの勤務経験の中から求職者だけでなく、企業側の両方の立場での理解者でもあり介護業界のイメージチェンジを指摘されているとのこと。

従来、求人手段としてハローワークやチラシ広告、人材派遣紹介業者の活用が一般的ですが、この度の研修では、現代のネット時代を反映した、特に若い世代で普通に使われているSNS型求人サイト運用による求人媒体の

紹介でした。就活情報によると求職者が望む情報として企業業績や理念、給与待遇面だけでなく職員の出勤から退勤までの一日の仕事の様子など職場のリアルな姿を知りたいなどSNSでの情報収集が増えている様で、実際に活用されている兵庫県内の特養での事例紹介と合わせ、個人情報取り扱いや導入コストの問題、フォロワー数確保など導入のポイントについての講義もして頂きました。

個々に素晴らしい取り組みや工夫をしていても残念ながら一般に周知されていない場合が多く、職場のイメージを捉え易い、文字から動画へのシフトチェンジが実際の採用に繋がるなど、今回の研修を通して、SNSでの情報発信が今後の福祉業界の向上に繋がっていく有効な手段になると感じました。

編集委員 古市明彦



はびねす滝野通所介護事業所は、加東市社会福祉協議会が運営する3つのデイサービスの一つになります。近くには県立播磨中央公園があり、春には桜、夏には新緑、秋は紅葉と自然豊かな環境を楽しむことができます。

来所されてからは、理学療法士によるリハビリ、一日二回の集団体操、カラオケ、レクリエーションを楽しんで頂いています。広い施設の中を移動される事で歩行訓練にもなり、足の筋力を鍛え、転倒予防に繋がっています。コロナ禍で今までのような事は出来なくなりましたが、花見、夏祭り、クリスマス会と職員が考えた催し物を楽しんで頂いています。毎日のレクリエーションでは元気な利用者様の声が聞こえてきます。感染対策をしながら利用者様



に楽しく安心して過ごしていただけるように職員一同頑張っています。おひとりおひとりの能力に応じて自立した日常生活が出来るようご支援いたします。

## はびねす滝野 通所介護事業所

通所介護／東播磨ブロック



加東市社会福祉協議会  
はびねす滝野通所介護事業所

施設長名 梶本 俊也 定員数 35名  
住所 〒679-0212 加東市下滝野1283-1  
TEL 0795-21-9034 FAX 0795-40-5188  
m\_tanaka@kato-shakyo.or.jp

「名塩さくら苑」は平成12年に、豊かな自然に囲まれながらも阪神間からのアクセスの良さを誇る西宮の地に開設した施設です。特別養護老人ホーム53床、短期入所7床、通所介護35名、居宅介護支援事業所、ヘルパーステーション、地域包括支援センターを運営しています。「すべての人を等しく慈しむ心で質の高いサービスを」の法人理念のもと、ひとりひとりの生き方を大切に、あたためたケアを目指し、利用者へ寄り添ったケアを日々全職員で取り組み頑張っています。当施設の特徴として、男女ともに勤続年数が長いスタッフが多数、スタッフ主導の施設内研修会を実施し、悩みや課題意識を共有し解決方法を一緒に検討するチームワークの良さがあります。今後は



コロナでなかなかできなかった家族とのかわりや行事・地域交流等を増やして地域に愛される施設運営に努めたいと思います。

## 特別養護老人ホーム 名塩さくら苑

特別養護老人ホーム／阪神ブロック



社会福祉法人慈仁会  
特別養護老人ホーム名塩さくら苑

施設長名 中島 由貴 定員数 53名  
住所 〒669-146 西宮市名塩さくら台2丁目44番地  
TEL 0797-63-3200 FAX 0797-63-3211  
sakura@leaf.ocn.ne.jp  
併設事業 短期入所生活介護・通所介護・居宅支援事業所・訪問介護・地域包括支援センター

キャッシル真和は姫路市山田町にあり、姫路市の北東部で福崎町と加西市に隣接し、緑に囲まれ、春には桜や秋には紅葉と四季を感じることが出来る自然豊かな環境です。

特別養護老人ホーム定員50名、併設事業所としてショートステイ定員20名、ケアハウス定員15名、デイサービスセンター定員35名、居宅介護支援事業所を運営しています。

キャッシル真和では、食事力を入れており、食事バイキングや客前料理、おやつバイキングや選択メニューなど、食事を楽しみにされている入居者様にも喜んで頂けるよう日々工夫した取り組みを行っています。私たちは、「安心・交流・信頼」の法人理念の下、入居者様やご家族様、地域の方々との交流を通じて信頼関係を築き、安心して生活ができるよう職員一同努めています。これから入居者様、ご家族様、地域の方々に必要な施設を目指して努力していきます。



## 特別養護老人ホーム キャッシル真和

特別養護老人ホーム／姫路ブロック



社会福祉法人みつわ福祉会  
特別養護老人ホーム キャッシル真和

施設長名 前田 由紀江 定員数 50名  
住所 〒679-2115 姫路市山田町西山726-1  
TEL 079-263-2325 FAX 079-263-2344  
info@casil.or.jp  
併設事業 短期入所生活介護、ケアハウス、通所介護、居宅介護支援事業所

きらめきケアセンターは、法人理念に「全ての住民が共に生き、支えあい、より豊かな生活を創り出す福祉コミュニティを実現する」を掲げ、お客様は元よりそのご家族様に寄り添い、楽しく元氣になり、自立支援につながるサービス提供を目指して運営しています。

お正月や節分、七夕、クリスマス等の季節行事には、地域のボランティアによる和太鼓やお琴等の演奏、腹話術、落語、切り絵、職員による寸劇など趣向を凝らしてお客様に楽しんでいただけるようにはしております。

午前中は、まずウエルカムティでお迎えし喫茶気分を味わっていただき、特浴やチェアー浴、大浴場での入浴、いくつかのメニューから選択し個人個人の



ニーズに合った過ごし方をしていただきます。午後からは体操や集団レク等で身体を動かして楽しんだりしながら楽しんで過ごしていただいております。

今後もお客様に寄り添い、自主性と自立性を大切にして取り組んでまいります。

## きらめきケアセンター

通所介護／西播磨ブロック



社会福祉法人佐用町社会福祉協議会  
きらめきケアセンター

施設長名 眞岡 克憲 定員数 23名  
住所 〒679-5213 佐用郡佐用町東徳久1946番地  
南光地域福祉センター内  
TEL 0790-78-1717 FAX 0790-78-1700  
kaigo@sayo-wel.or.jp  
併設事業 訪問介護・訪問入浴介護

## 事務局からの お知らせ

# 令和5年度 介護の日イベント

令和5年11月13日(月)開催  
場所/神戸メリケンパークオリエンタルホテル 4F 瑞天

令和5年11月13日(月)神戸メリケンパークオリエンタルホテルにおいて令和5年度「介護の日イベント」を開催しました。

第1部は『「支える側が支えられるとき」～認知症の母が教えてくれたこと～』と題し、詩人で児童文学作家の藤川幸之助氏の講演でした。

藤川幸之助氏は、自身の認知症の母の介護を通して、介護をする側の心の葛藤、介護をされる側の母の反応、そこからの気づきを詩の朗読を交えながら語っていただきました。介護する側の気持ちで認知症を理解しようとする、大変さに着目されがちですが、認知症のお母様に言葉がなくても心があると感じた時、介護される側への気持ちに少し寄り添うことができ、実は子供のころからずっと守られ、支えられていることに気づき、周りのいろんな方々にも支えられているのだと、認知症の母が教えてくれたと話されました。

第2部は「人生の最終段階に向けての県民フォーラム」として、『「終末期」の生を支える』と題し、かえでホームケアクリニック 顧問 関本雅子氏の講演でした。

関本雅子先生も緩和ケア医として、在宅の患者さ

んの人生の最終段階に寄り添う医療を実践されています。講演の冒頭、ACP(人生会議)の重要性を話され、人生の最期をどうしたいかを何度も家族や親しい人に話していくことが大切だと話されました。そして、先生のご長男 関本 剛先生が末期の肺がんと診断されお亡くなりになるまでの約3年についてもお話しくださしました。関本 剛先生も緩和ケア医で最期の時まで「どう生きたいか」を実践されたそうです。医者として家族として「その人らしい」最期に寄り添ってこられた経験をお話しくださしました。2講演とも非常に心に響くもので、「支える」ということを考える一日となりました。



## ◆◆◆ 青年部会 会員募集中 ◆◆◆

### (入会条件)

#### 正会員

50歳以下の施設長もしくは施設長の推薦する50歳以下の施設職員  
年会費：5,000円

#### 賛助会員

会の趣旨に賛同し、ご支援いただける方  
年会費：10,000円

### (目的)

老人福祉の増進と老人福祉事業推進のために、老人福祉事業後継者としての研鑽と会員相互の親睦をはかることを目的とする。

入会お待ちしております！  
入会についてのお問い合わせ、  
並びに申込書送付は下記、  
青年部会 事務局まで。

#### 【青年部会 事務局】

特別養護老人ホームヘルシービラ加美 藤岡  
TEL (0795) 35-0777

## 県老協加入施設数

R5.11.13現在

	特養	養護	軽費	ケアハウス	デイサービス	計	
会員	阪神	68	6	0	21	67	162
	東播磨	61	6	1	18	69	155
	姫路	41	3	0	8	39	91
	西播磨	28	5	0	2	34	69
	但馬	25	3	0	6	37	71
	丹波	11	4	0	3	12	30
	淡路	21	4	0	2	18	45
計	255	31	1	60	276	623	

※ 賛助会員 1事業所(内訳:団体)

## 《行事予定》

### 【本会研修事業】

- ・1月18日(木) 養護部会 職員研修
- ・1月22日(月) ケアプラン研修会
- ・2月5日(月) 軽費・ケアハウス部会 職員研修会
- ・3月7日(木) 施設長研修会

## 編集 後記

この冬は、新型コロナウイルス感染症、インフルエンザとダブルで流行しております。高齢者の介護に携わる会員事業所の皆様は、感染防止、感染対策を緩めることはできません。このような状況だからこそ、ご利用者様、ご家族様の気持ちに寄り添った温かい介護を目指したいものです。来年も引き続き、会員事業所の皆様とともに事務局も一丸となって、迅速な情報収集や情報提供に努めてまいりますので、どうぞよろしくお願ひします。